

議長総括

マレーシア市民保護局副局長 Haji Selamat Bin Haji Dahalan

本日、マレーシア市民保護局及びクアラルンプール市政府が共催した第12回アジア危機管理会議クアラルンプール2014が成功裡に終わられることはまことに喜ばしい限りです。

加盟都市であるバンコク、クアラルンプール、マニラ、ソウル、シンガポール、台北及び東京の代表の皆様へ感謝致します。これは実によいセッションであり、この会議を通じ、私たちは、参加している各都市の間で蓄積してきた危機管理に関する経験と知識を共有することができます。この年1回の機会により、アジア大都市ネットワーク21の枠組である、危機管理ネットワークと加盟都市との間で先見性のある対策を構築することが可能となりました。

海外からの代表の皆様、

レジリエンス(回復する力)とは、正式に申し上げるならば、内的・外的変化に対し、その機能と構造を維持し、必要な場合には機能維持のための代替手段を用意するといった、システムの能力を意味します。

レジリエンスは、システムの一部に故障があっても機能し続けるときに生じます。最新の危機・災害管理研究のかなりの部分は規範的な研究の伝統に基づき、将来の危機を予想し、シナリオに合った危機管理計画を策定することを目的としています。こうした研究のアプローチの限界と、常に変化する世界において起こりうるすべての危機を予測することができないことを踏まえ、レジリエンスは、危機研究の分野において大規模な領域を広げてきました。それにもかかわらず、レジリエンスは、必要に応じて発動させ、利用できる、組織システムの独特な特徴として当然と思われるのが普通であり、それがそもそもどのようにしてそこに存在するようになったのか、熟考することはほとんどありません。

そこで、「壊滅的な危機や災害から回復する力」が今年の会議のテーマとして選ばれており、各都市がそのような壊滅的な状況に確実に対処できるようにするために取り組むべきです。

来賓の皆様、

今年の会議の全体としての成果として、災害と危機を適切に管理するために不可欠な重要要素を特定・決定し、災害管理サイクルにおける位置づけを行うことができるかもしれません。加盟都市はそれぞれが、気候変動によって引き起こされる洪水や台風などの天災の襲来、テロ攻撃などの人災、並びに核爆発、化学薬品の流出、感染症などのその他の危機における知識と経験を持ち寄りました。主旨は、未来に向けた回復力のある国へ発展させるために現行の計画及

び戦略を強化する必要があるということです。

結論として、参加各都市は、災害や危機の影響を軽減する地域密着型プログラムの概念を報告書にまとめました。コミュニティレベルで初期段階の対応者をまとめる対応システムを構築する必要性は、特に専門職の対応者が現場に到着するまでにはある程度の時間がかかる場合、極めて重要です。総合的な演習や一般市民の訓練、安全マップや避難計画、対応戦略と様々な機関・組織からの継続的な支援が、確実に都市が災害や危機の影響に耐えられるようにするための重要な要因として提起されています。

このネットワークの成果は、危機管理における対話と積極的な検討のための強力な論点として提供されます。この会議で発表された考えやアイデアは、微妙な差異や私たちが将来出会うことになる状況をすべて包括してはいません。むしろ、我々の抱える潜在的な課題に我々がどのようにして協働して対処できるかについての共通理解を深めるための基盤を提示しています。従って、加盟都市の間の連携・協力は不可欠であり、私たちは、危機管理の分野における地域内の協力をより一層深めていくべきであることを確認します。

ご清聴ありがとうございました。